

外国人、日本で大地震に遭遇するが無事避難する

神戸ベイシェラトンホテル&タワーズ

1 地震発生時の対応

ホテルには前日から94名の外国人を含む259名が宿泊していた。当直者はナイトマネージャー（宿泊部長）以下21名（うち警備員7名）で、宿泊部長は16階の客室に、他の当直者は1階の当直室及びフロントで勤務していた。地震発生直後は揺れが激しく行動が不可能であった。

揺れがおさまると宿泊部長は、廊下に飛び出し、非常電話で防災センターに連絡したが不通であった。その頃16階の宿泊客も不安そうに廊下に出てきたので、特別避難階段から避難するように誘導した。また、地震の発生から約10分後に、防災センターからの非常放送設備により避難誘導を実施した。同時に宿泊部長は防災センターから消防、警察への通報を指示したが不通であった。

2 避難誘導等の状況

地震後、各階の宿泊客も慌てて通路に出てきたので16階の避難者と合流させて、避難誘導を実施した。避難に際してエレベーターを使用しないように指示した。午前6時頃に、六甲アイランドに居住するインターナショナルマネージャー（アメリカ人）が到着し、状況を日本語と英語で宿泊客に対して説明した。外国人宿泊客はかなり騒いでいたが、状況の説明により納得してくれた。

午前6時10分頃になると、島内に居住している社員が続々と駆けつけ、総勢約30名となったので、ナイトマネージャーは前日の宿直者と協力して対応するように指示した。

ロビーに避難した人は島内の向洋中学校へさらに避難するように、非常放送設備で放送を繰り返した。従業員は全ての客室のドアを開けて残留者の有無の確認を行い、全員の避難完了が確認できたのは午前6時40分頃であった。あわせて従業員は館内の出火の有無を確認するとともに、特別の事情のある場合以外は、全ての立ち入りを禁止し、玄関以外の出入口は全て閉鎖した。

当日は六甲大橋が通行不能のため、市内の状況が不明であり、また宿泊客の島外への避難が不可能な状況であった。そのため、当日の夜宿泊客は、ホテルのロビー等で一夜を明かした。翌日の午後6時30分頃に六甲大橋の通行禁止が解除となり、宿泊客を送迎バスで阪急電鉄「西宮北口駅」までピストン運転で送りだした。最終的には19日の午前10時に全員送り出すことができた。

3 教訓

- (1) 自家発電設備が電気の復旧（当日の昼頃）まで作動していたため有効であった。
- (2) 各客室の家具、テレビ等の固定が必要である。